

〈かかわり〉の人間学 再考 人間学のこれまで・これから

人間とは何か、という問いには多様なアプローチが可能です。科学技術の発達によって、私たちは人間という「現象」をより緻密に記述・分析し、心身や社会のあり方をコントロールするようになりました。しかしそうした「知」は、決して私たちが「人間として、いかに生きるべきか」という問いへの、十分な答えを与えるものではないでしょう。

「かかわり」としての人間、という視座は、私たちを「生きる意義」への問いに誘います。今回のシンポジウムでは、上智の「人間学」が半世紀にわたり大切に育んできたこの眼差しを、様々な角度から再考し、新たな危機の時代に歩むべき道を、ともに考えます。

パネリスト： 瀬本 正之（上智大学神学部 教授）

片山 はるひ（上智大学神学部 教授）

吉川 まみ（上智大学神学部 准教授）

高山 貞美（白百合女子大学 学長）

司会： 崎川 修（ノートルダム清心女子大学 教授）

2021年 9月4日（土） 13:00～15:00
(Zoomミーティングによるオンライン開催)

参加ご希望の方は9月2日（木）までに、
事務局にメールでお申し込みください。（参加は無料です）
当日までにZoomの参加アドレスをお知らせします。

上智人間学会事務局：theolo-2@sophia.ac.jp

TEL：03-3238-3529 上智大学神学部（キリスト教人間学）事務室内

学会ホームページ：<http://ningen-gakkai.org>